

「止めよう経ヶ岬の米軍レーダー・危険な戦争準備を許さない」

緊急京都府民の会・南部連絡会 会報 No.2

発行： 緊急京都府民の会・南部連絡会

連絡先： 京都市上京区四番町121-5 大湾宗則

2013年11月8日

TEL/FAX： 075-467-4437

E-mail： ohwankyoto@nifty.com

近畿防衛局 抗議申し入れ行動に

28人参加

報道官「どんな基地ができるのかわからない ので、環境影響評価はしていない」



「緊急京都府民の会・南部連絡会」は10月24日、大阪合同庁舎第二号館で近畿防衛局に対して「京丹後市での米軍Xバンドレーダー基地建設計画を中止すること」を求める抗議申し入れ行動をおこないました。服部良一・前衆議院議員も参加し、京都・滋賀をはじめ近畿から28人が参加しました。

抗議申し入れでは冒頭、南部連絡会共同代表の白井美喜子さんが抗議申し入れ書を読み上げました。続い

て「平和のための元自衛官連絡会」の同伴一人さんが同会の申し入れ書を読み上げました。そして「とめよう戦争！兵庫・阪神連絡会」の申し入れ書を同会の方より提出しました。

南部連絡会・事務局長の山本純さんが「今回は南部連絡会の申し入れ書に基づいておこなっていきたい。」と述べたあと、近畿防衛局側は報道官が対応しましたが、報道官は最初に「質問があれば、事前にペーパーで出しておいていただきたい。各種



質問に対しては、それぞれ担当部署があるので、そこから回答を受けてそれをお伝えしている。今日いただいたものは主張ということで、これを防衛大臣にお伝えするということになる。質問があれば事前に出していただいて担当部署に回答をもらう必要がある。そこを承知していただきたい。その上で進めてほしい。」と発言しました。

次に南部連絡会共同代表の大湾宗則さんより、「米軍基地をつくる場合には環境影響評価をして、市民に対してこれだけ調査して大丈夫という資料を出すべきだ。また、京都府・行政は府民の命と暮らし、安心・安全、平和に生きる、そのことを守るのが責務、仕事の根幹である。しかし、現地の住民説明会ではほとんどの住民が納得していない。この事態で米軍基地建設を強行するならば、起こってくる一切の問題はあなたたちの責任である。住民説明会をしっかりとやらなければならない。そして、11月1日から沖大東島で陸・海・空自衛隊3万4千人が軍事演習をおこなうことに抗議する。」と発言しました。



次に服部良一・前衆議院議員が「アジアに対して挑発的なシグナルを送るのではないかと懸念している。防衛省のやり方は荒っぽい。レーダーの性能や機能、影響がどうなっているか実相が我々に知らされていない、環境影響調査もない、住民の納得も得られていない、その中で、絶対に強行はさせないという思いで今日は来ている。誠意ある回答をお願いしたい。」と述べました。

続いて山本純さんが「今日は特に、環境影響評価がなされていない問題、日米地位協定見直しの問題についてお答え願いたい。」と発言しましたが、報道官は「今回いただいた内容では回答を求めているような質問書ではない。皆さんの団体の主張を述べたもので、回答の段取りはしていない。」と述べました。

次に大湾さんが「経が岬ではなぜ環境影響評価をやらないのか。」と追求しました。**報道官は「米軍の計画なるものがまだ示されていない。どういうものがつくられるかまだわからない。青写真がない。環境影響評価については、具体的などういったものがつくられるか決まる前にまだ具体的な手続きはできない。」と述べました。**大湾さんは「それは逆ではないのか。これだけのものがあると想定したらその環境影響評価をやって、皆さんにそれで大丈夫です、安心・安全・命も大丈夫です、だからつくらせてください、だから土地を貸してください、というのが順序ではないのか。」と追求しましたが、報道官は「質問があれば、事前に質問書を出しておいてほしい。担当部局が回答するので。」と発言しました。そして報道官は「いままでこの件で地元に対して説明会を15回してきた。その中で質問の場を設けてきた。そういった場をふまえて9月に首長からご理解をいただいた。」「住民説明会で質問に対してはお答えしている。」と発言しました。参加者より「京丹後市で住民説明会が開催されたのは知っているが、京丹後市の市民を対象としたもので、京丹後市以外の京都府でも一回も住民説明会がおこなわれていない。ましてや近畿においては住民説明会是一回もおこなわれていない。ということは説明されていないということだ。」「地元の説明会でも、たとえば米軍の宿舎がどこにできるのかまだわかりません、レーダーの出力は軍事機密です、そういう住民説明会を15回やっても地元の不安がなくなる。肝心なことは

米軍に聞かなければわからないという説明会では地元の人すら満足していない。ましてや京都府民は何も聞かされていない。「どういうものがつくられるのがわからないのに、土地取得を進めているのか。」「申し入れをしているということは、あなた方の見解を質しているということだ。これに対する回答を出せ。」などの発言がありましたが、報道官は「いただいた申し入れ書をしかるべき部署に伝える。質問に対しては担当部署に照会してお答えしている。この申し入れ書は回答を求める文書ではない。」と繰り返し答えました。参加者より「担当者を出して直接交渉できるようにすべきだ。」という意見も出しましたが、報道官は「そういうことはしていない。」との返答でした。報道官が事前に質問書をだしておくことに固執したため、山本さんより「改めて質問書の形式に直してそれに対する回答を求める。」とのまとめで約1時間の交渉を終えました。

米軍Xバンドレーダー基地反対 近畿連絡会(準備会) 発足

10月24日、近畿防衛局申し入れのあと、近くのSORA事務所で近畿連絡会の相談会をおこないました。参加者は約15人でした。

相談会では参加者の自己紹介のあと①これまでの経過と地元(宇川)の状況、②米軍Xバンドレーダー基地反対近畿連絡会の結成に向けて、③12月15日の現地大集会、について議論されました。相談会での内容は次の通りです。

(1) 近畿連絡会の組織的性格

反戦反基地運動全般の連絡会でなく、Xバンドレーダー反対を課題とする連絡会とする。
各府県の運動構造を尊重し、それを結びつけていく連絡会(あいば野方式)。
各府県から世話人を出してもらう。



(2) 名称は「米軍Xバンドレーダー基地反対・近畿連絡会」とする。

10月24日の相談会で近畿連絡会(準備会)発足を確認。
準備会の共同代表 大湾宗則さん 服部良一さん
事務局長 山本純さん(事務局機能は京都に置く)

(3) 南部連絡会の再編

緊急京都府民の会からの分離
名称の変更 例 米軍Xバンドレーダー基地反対・近畿連絡会(京都)
団体・個人の参加・他府県からの参加に開かれた会議としていく。
これまでの南部連絡会の枠をさらに拡大することを追及する。
12月15日までは南部連絡会の名称を対外的には併用する。

(4) 近畿連絡会(準備会)として、12月15日の現地大集会への総結集の呼びかけを行なう。

(5) 近畿連絡会(準備会)次回会議 11月27日(水)午後6時30分 きずな事務所

「変えよう！日本と世界 第7回 反戦・反貧困・反差別共同行動 in 京都」で

大槻正則さん(緊急京都府民の会・代表)、永井友昭さん(米軍基地建設を憂う宇川有志の会・事務局長)が特別報告



「変えよう！日本と世界 第7回 反戦・反貧困・反差別共同行動 in 京都」が10月20日、円山野外音楽堂で開かれ、雨天の中530人が参加しました。集会の中で緊急京都府民の会・代表の大槻正則さん、米軍基地建設を憂う宇川有志の会・事務局長の永井友昭さんが「京都に米軍基地は作らせない」として、それぞれ特別報告をおこないました。

大槻さんは「日米両国政府は今年2月、京丹後市・経ヶ岬に米軍Xバンドレーダー基地を建設すると突然発表した。私たちは3月9日に、米軍基地はいらないとして「緊急京都府民の会」を結成し、皆さんと一緒に立ち上がった。しかし田舎であるから、えらい人の決めたことは反対しにくい、米軍基地があることによって地域が発展するのではないかと、などと言われてなかなか反対は盛り上がらなかった。しかしながら、丹後地域全部合わせても人口6万人くらいだが1万5千人の署名をみつめて市長に要求を持っていった。しかしその回答はまったくくない。いよいよ軍事基地が京都で初めて、近畿で初めてつくられようとしている。この問題は単に丹後地域だけの問題ではない。近畿の問題であり、憲法を変えようとする勢力との闘いである。知事・市長は受け入れ表明をしたが、闘いはこれからである。12月15日には一大勢力で市役所を取り囲んで、市長さんあきらめなさい、そんなこと受け入れたら大変ですよ、ということをお願いしていきたい。ぜひ皆さんのお力をおかりしたい。」と訴えました。

次に永井さんが「話しが起きてから宇川でも大きな説明会が4回あった。近畿中部防衛局の人が出てきて、皆さん心配なことは何もありません、電磁波は安全です、米兵は私がしっかり教育させてへんなことはさせません、たくさんお金も落ちますので道も良くしましょうと言ったが、聞けば聞くほどこの男の言うことは信用できず、ほんとに不安がつるばかりであった。彼らへの信頼感が回を重ねるごとにどんどん崩れていった。市長も彼らの言うことを繰り返すだけ。あなた方のいうことは信用できない、米軍の責任者を連れて来いと何度も言ったが、それはできません、ということで終りだった。9月19日に知事と市長が受け入れ表明をしたが、それまで彼らの言ってきたことは、住民の安全・安心の確保が第一であるということである。そのことを国がきちっとしてくれるなら協力しないわけではない、大前提は住民の安全・安心だと何度も聞いてきた。しかし、受け入れ表明以降、実





際彼らがやってきたことは、地権者会議をやって米軍が使用する土地を確保する、それだけである。札束で頬をたたくようなやり方で地権者一人ひとりを押さえていこうということをやっている。もうひとつは警察官を増やすことを府は決めた。彼らには米軍の人たちが犯罪をおこしても逮捕する権限がない。どうやって守ってくれるのか。約束した安心・安全の条件を府も市も守れ。闘いの予戦は済んだ。本戦の立て役者は我々

宇川住民である。地権者は40人くらいだが1700人の宇川住民が準地権者である。我々の生活そのもの、未来そのものがどうなるかわからない瀬戸際に今おかれている。ひどいことを平穏な生活をしている人たちの上に持ってこようという人たちに、徹底的に抵抗していきたい。12月15日に京丹後市役所前で、このXバンドレーダー基地建設はいやだという人はみんな集まって大きなイベントをするので、ぜひ参加してほしい。」と訴えました。

京丹後市・経ヶ岬に米軍基地はいりません

平和の叫び&人間のくさり に大結集しよう！

(Shout For Peace & Human Chain Action)

12月15日(日) 午後2時～ 場所：京丹後市役所前

リレートーク、ヒューマンチェーン、デモを実施します

主催：平和の叫び&人間の鎖12・15実行委員会

よびかけ：米軍基地建設を憂う宇川有志の会

実行委員会団体：米軍基地建設反対丹後連絡会、米軍基地いらない宮津・与謝の会、「止めよう経ヶ岬の米軍レーダー・危険な戦争準備を許さない」緊急京都府民の会、「止めよう経ヶ岬の米軍レーダー・危険な戦争準備を許さない」緊急京都府民の会南部連絡会、京都に米軍基地いらない府民の会



写真は伊根の舟屋。京丹後は漁業が盛んだが、Xバンドレーダーの電磁波や冷却水で魚の流れが変わる可能性がある。

会員・賛同者の方へ

郵便振替は「近畿連絡会」に変更確認できるまで、「南部連絡会」に振り込んでいただきますよう、お願いします。

会費の郵便振込先 名義 緊急府民の会・南部連絡会 口座番号 00950-9-303127

「沖縄にもどこにも米軍基地はいらない！」

経ヶ岬の米軍 Xバンドレーダー基地建設を許さない近畿連絡会」(仮称) 趣意書 (案)

2月22日、日米首脳会談で京丹後の経ヶ岬に津軽に次ぐ二番目の Xバンドレーダーを配備すると決定しました。これは米軍占領下以来(とその継続後)、京都・近畿で初めての米軍基地建設です。

Xバンドレーダーとは、THAAD^{サード}ミサイル(高々度終末迎撃ミサイル)のために開発されたもので、解析度が高く、迎撃弾道ミサイルの誘導・追跡・識別能力に優れています。これは、朝鮮民主主義人民共和国からのミサイル攻撃に対応するもので、グアムの米軍基地を防衛し、また舞鶴の軍港や若狭の原発防衛も含まれているとされています。

安倍内閣は、経ヶ岬への米軍 Xバンドレーダー基地建設を契機に、舞鶴軍港のイージス艦、福知山の陸自、桂や大久保の兵站基地、大阪の八尾空港へのオスプレイ招致要請、そして滋賀県の饗場野軍事演習場をつないだ一大軍事拠点日本海に向けて近畿に作ろうとしているのです。これに対して9月23日、中国は経ヶ岬への Xバンドレーダー基地建設等に警戒感を表明し、東アジアの軍事的緊張が一層強まっています。美しい丹後半島は、仮想敵から狙われるミサイル攻撃の対象となったのです。

安倍内閣は、現在、①「領土・ミサイル・歴史認識」問題でアジアの緊張を一段と強め、国民のナショナリズムを駆り立てながら国民統合を図り、沖縄・辺野古への新基地建設などを狙っています。また、オスプレイやヘリ空母(護衛艦「出雲」)、水陸両用戦闘輸送車等の導入による自衛隊の海兵隊仕様への質的転換を進めています。こうして海外に展開する企業の権益擁護のため沖縄基地を出撃拠点にした海外派兵と集団的自衛権行使、新秘密保護法制定を準備しています。さらに安倍内閣は、②不況克服と称して増税、社会保障切り下げ、規制緩和による労働者大衆への格差と分断、搾取と支配を強めつつ、武器輸出三原則の緩和を条件に兵器の共同開発による軍拡、軍需産業の拡大、武器輸出の本格化を図っています。これらが「人民主権の現行憲法」から「国家主権を軸とした憲法改悪」の動機です。

日本政府はこれまで、資本・工業・都市中心の政治と経済を進めてきました。この結果、沖縄・福島・京丹後など農村と辺境に国策的差別を押しつけてきました。

こうした経過を受けて丹後地域は今日、過疎地ではありますが、ジオパークや国立公園内にあり、豊かな農産物と漁業があり、穴文殊など貴重な文化財が存在し、アベサンショウウオ、ハヤブサなど絶滅危惧種の稀少動植物が息している地です。そして、何よりこの丹後の地で歴史と文化に育まれて生活している人々がいます。安全保障に名を借りた国策で彼らが踏みつぶされることを見過ごすことはできません。

9月19日、京都府知事・京丹後市長が新たな米軍基地の受け入れを表明し、すでに防衛省による袖志地区での米軍基地の借地交渉が始められ、住民の分断が始まっています。

共同体の一体感が残されてきた京丹後においては、地域内のいざこざを恐れて多くの人々は賛否を表明することに尻込みしてきました。しかし、8月7日に京丹後市民を対象に180人が参加して宇川小学校で行われた住民説明会では、発言した22人の全員が「納得しない」「反対だ」と声を上げました。

経ヶ岬周辺の地権者を抱える袖志区、宇川区など地元の人々が、日本政府の権力と金銭で封じ込められ、孤立感からあきらめて受け入れやむなしになる前に、京都・近畿の人々が彼らへの支援を強めなければなりません。

現地の人々を主権者と位置づけ、また私たちも京都府・近畿で共に暮らす当事者として現地を支えていきましょう。山田京都府知事に「府民の命と暮らし」「安心・安全」を糾し、府民への住民説明会の開催を要求し、同時に防衛省・米軍には環境影響評価の実施を求めていきましょう。沖縄の闘いに連帯して、平和と人権擁護のため米軍 Xバンドレーダー基地建設を阻止しましょう。

防衛大臣

小野寺五典 殿

抗議申し入れ書

「京丹後市での米軍Xバンドレーダー基地建設計画を中止すること」

本年2月22日の日米首脳会談での合意を受けて、米軍とともに防衛省が進めてきた京都府京丹後市・経ヶ岬における米軍Xバンドレーダー基地の建設計画について、私たちは以下の理由からこれに反対し、その撤回と中止を強く要求します。

■ 東アジアの軍事緊張を拡大する基地建設の中止を！

第一に、この新たな米軍基地の建設は、東アジアの軍事緊張を拡大させるものです。すでに中国外務省は、経ヶ岬でのXバンドレーダー基地建設計画に関連して、「一部の国や集団は北朝鮮の核ミサイルの脅威を隠れみのにし、一方的にミサイル防衛システムをつくったり、集団的な協力を行ったりしている。これらは地域の平和と安定のためにならない」（洪磊副報道局長／2013年9月23日）との旨を表明し、警戒感を示しています。一方的な軍備増強・新基地建設は、東アジアにおける平和構築を大きく阻害するものです。

■ 住民を軍事攻撃の危険にさらす基地建設の中止を！

第二に、現代兵器の特徴からレーダーがもつ兵器としての重要性は高く、有事の際に軍事攻撃の標的となる危険性・蓋然性が極めて大きいということです。このために、地元住民は常に軍事攻撃にさらされる不安と恐怖のなかで生活せざるを得なくなります。防衛省は京都府や京丹後市に対して「防御に万全を期す」旨を回答していますが、到底納得のいくものではありません。また、基地建設にともなう警備要員の増強自体、地元負担を増大させることとなります。

■ 情報開示と科学的知見にもとづく電磁波の影響の事前調査を！

第三に、多くの人々が懸念しているレーダーが発する電磁波の人々の健康や生活・生業への影響の問題について、科学的な根拠をもってする説明がまったくなされていないことです。レーダーの正確な出力数さえ明らかにされないままでは、地元住民の不安は払拭できません。

■ 用地取得交渉を中断して、環境影響評価の実施を！

第四に、環境や景観への悪影響の問題です。すでに、基地建設予定地の周辺に生息しているハヤブサやアベサンショウウオなどの希少生物への影響が指摘されています。また、基地で使われる大量の水の排水処理方法が明らかにされていないことが環境への悪影響への懸念を増大させています。周知のように、基地建設予定地は国定公園内にあり、山陰海岸ジオパークの一部を構成しています。いたずらに用地取得を急ぐのではなく、米軍基地の建設が周辺地域の貴重な環境や景観にどのような影響を与えうるのかきちんとした調査をすべきです。それを行うまでは、基地の建設に向けたいかなる動きも中断すべきです。

■ 日米地位協定の抜本的改正を！

第五に、駐留する米軍人・軍属による事件・事故の問題です。沖縄をはじめ在日米軍基地の周辺では凶悪犯罪を含んで米軍が関係する事件・事故が繰り返し引き起こされてきました。地位協定の運用を多少見直すだけでは米軍による事件・事故、米軍犯罪を根絶することはできません。それゆえ防衛省は、日米地位協定の抜本的改定に向けた努力をすべきなのです。

また、これと関連して京丹後市は「刑事裁判手続きに関する裁判権」や「事件事故等における現場への立入り調査権」を具体的にあげ、日米地位協定およびその運用についての改善を要求しています。これに対して防衛省はいかなる努力を行うのか具体的に明らかにしなければなりません。

■人々の不安に向き合い、誠実に説明責任を履行せよ！

第六に、地元住民の十分な納得がないまま、防衛省がやみくもにこの新たな米軍基地建設を進めようとしていることです。京都府知事・京丹後市長の「受け入れ表明」にもかかわらず、地元の住民の多くは、新たな米軍基地の建設について納得しておらず、これまで述べてきたような軍事攻撃の標的になる危険性、電磁波の影響、環境や景観への影響、米軍人・軍属による事件・事故などについて多くの不安を抱えています。防衛省が人々が指摘している諸問題について納得のゆく説明ができていないからです。また、京都府をはじめ関西の諸府県で暮らす人々にこの問題が十分に周知されているとは言えず、この点を早急に改善すべきことは明らかです。

以上のことから私たちは、防衛省があくまでこの京都府京丹後市・経ヶ岬での米軍Xバンドレーダー基地建設計画を進めようとしていることに強く抗議し、計画の撤回と中止を求めます。

止めよう！経ヶ岬の米軍レーダー・危険な戦争準備を許さない

緊急京都府民の会・南部連絡会

共同代表 大湾宗則 白井美喜子 上岡修 仲尾宏 木原壮林 瀧川順朗
連絡先 075-467-4437 kyogamisaki2013@yahoo.co.jp